

OpenAM 9.5 インストールガイド



OSSTech

オープンソース・ソリューション・テクノロジー(株)

更新日: 2013年7月19日

リビジョン: 1.8

目次

1. はじめに	1
1.1 本文書の目的	1
1.2 前提条件	1
1.3 略語	1
2. 事前準備	2
2.1 ホスト名の名前解決	2
3. Linux 版パッケージ	3
3.1 システム要件	3
3.1.1 ソフトウェア要件	3
3.2 パッケージ構成	3
3.3 RPM パッケージのインストール	3
3.3.1 準備	3
3.3.2 依存パッケージのインストール	4
3.3.3 パッケージの確認	4
3.3.4 パッケージのインストール	4
3.3.5 Tomcat の起動	4
3.4 RPM パッケージのアップデート	5
3.4.1 準備	5
3.4.2 Tomcat の停止	5
3.4.3 OpenAM 設定ディレクトリのバックアップ	5
3.4.4 OpenAM のバックアップ	6
3.4.5 Tomcat の work ディレクトリの削除	6
3.4.6 パッケージの確認	6
3.4.7 パッケージのアップデート	6
3.4.8 カスタマイズの反映	7
3.4.9 Tomcat の起動	7
4. war ファイルのディプロイ	8
4.1 事前準備	8
4.1.1 Oracle JDK 6 のインストール	8
4.1.2 環境変数 JAVA_HOME の設定	8
4.1.3 JAVA ヒープサイズ	8
4.1.4 OpenAM war ファイルの取得	8
4.2 インストール	9
4.2.1 OpenAMwar ファイルのディプロイ	9
4.2.2 Tomcat の起動	9
5. OpenAM 用 LDAP スキーマファイルのインストール	10
5.1 システム要件	10
5.1.1 ソフトウェア要件	10
5.2 パッケージ構成	10
5.3 スキーマファイルパッケージのインストール	10
5.3.1 準備	10
5.3.2 パッケージの確認	10
5.3.3 RPM パッケージのインストール	11

5.3.4 スキーマの有効化.....	11
6. 改版履歴.....	12

1. はじめに

1.1 本文書の目的

本文書は OpenAM 9.5 パッケージを導入するための手順書です。OpenAM 9.5 パッケージのインストールの際に、必ず本文書の内容を確認してから、作業を実施してください。

本文書に関する記載内容について、疑問点等がある場合には、弊社サポート窓口までお問い合わせください。

1.2 前提条件

本文書は、特に指示がない限り、以下のような条件を前提に記述しています。これと異なる場合は、適宜内容を読み替えるか、必要な作業を別途実施してください。

- 作業者が OS と関連ソフトウェアの管理や操作手順についての一般的な知識を有すること。
- OS と関連ソフトウェアの基本設定が適切になされていること。
- OS のセキュア OS 機能 (SELinux 等) やファイアウォール機能を無効化すること。
 - ファイアウォールを有効化した状態で OpenAM を運用することも可能です。手順の簡略化のために、本書ではファイアウォールが無効化されていることを前提とします。
 - 現状、OpenAM は SELinux が有効な状態では動作しないため、SELinux を無効化してください。
- root ユーザーで作業すること。(作業ユーザーを指定している場合を除く)
- OSSTech 製品パッケージファイル群をインストール対象 OS 環境の `/srv/osstech-work/software/RPMS` ディレクトリ以下にコピーしておくこと。

1.3 略語

本文書では必要に応じて以下のような略語を用います。

- 「Red Hat Enterprise Linux」を「RHEL」と表記します。
- 「オープンソース・ソリューション・テクノロジー」を「OSSTech」と表記します。

2. 事前準備

本章では、OpenAM インストールを開始する前の確認事項について説明します。

2.1 ホスト名の名前解決

OpenAM はシングルサインオンを実現するためにクッキーをドメインに対して設定します。そのため OpenAM サーバーへのアクセスは完全修飾ドメイン名(FQDN)で行う必要があります(注 1)。FQDN が DNS 等により名前解決可能であることを確認して下さい。

Linux サーバー(Red Hat 系)の場合は、以下のファイルにも FQDN を記述してください。

- /etc/sysconfig/network

なお、本書では OpenAM サーバーのホスト名を「sso.example.co.jp」として説明します。

(注 1) : IP アドレス等の完全修飾ドメイン名以外でアクセスがあった場合には、OpenAM は完全修飾ドメイン名を使って自分自身にリダイレクトを行います。

3. Linux 版パッケージ

本章では弊社が提供する Linux 版 OpenAM 9.5 パッケージのインストール手順を説明します。

3.1 システム要件

|| 3.1.1 ソフトウェア要件

以下のいずれかの OS 環境が必要です。

- Red Hat Enterprise Linux 6 (x86/x86_64)
- Red Hat Enterprise Linux 5 (x86/x86_64)
- CentOS 6(x86/x86_64)
- CentOS 5(x86/x86_64)

また、以下のソフトウェアが必要です。

- Oracle JDK 6

3.2 パッケージ構成

弊社が提供する OpenAM 9.5 は以下のパッケージにより構成されています。

- OSSTech ソフトウェア製品基本パッケージ
 - osstech-base
 - osstech-support
- OSSTech Tomcat6 パッケージ
 - osstech-tomcat6
- OSSTech OpenAM 9.5 パッケージ
 - osstech-openam

3.3 RPM パッケージのインストール

各パッケージのインストールは、OS 付属の rpm コマンドを用いて行います。以下の手順にしたがってパッケージのインストールを実施してください。

|| 3.3.1 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。

下記の例では/srv/osstech-work/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

|| 3.3.2 依存パッケージのインストール

Oracle JDK 6

OpenAM の動作には JDK 6(Oracle JDK)が必要です。JDK は Oracle のサイトからダウンロードした RPM 版を使用します。ダウンロードしたファイルを `jdk-6uXX-linux-x64-rpm.bin` とします(XX は Update のバージョンです)。以下の手順で JDK をインストールします。

```
# sh ./jdk-6uXX-linux-x64-rpm.bin
```

コマンドラインのインストーラーが実行され、自動的に JDK の RPM 群がインストールされます。

|| 3.3.3 パッケージの確認

パッケージ展開先のディレクトリに弊社提供のパッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech-work/software/RPMS
# ls base
osstech-base-3.0-XX.el6.noarch.rpm
osstech-support-3.0-XX.el6.noarch.rpm
# ls openam
osstech-openam-9.5.X-X.el6.noarch.rpm
osstech-openam-tools-9.5.X-X.el6.noarch.rpm
osstech-tomcat6-6.0.X-X.el6.noarch.rpm
```

|| 3.3.4 パッケージのインストール

rpm コマンドを使用して、RPM パッケージをインストールします。

```
# rpm -ivh base/*.rpm
# rpm -ivh openam/*.rpm
```

|| 3.3.5 Tomcat の起動

Tomcat を起動します。

```
# /sbin/service osstech-tomcat6 start
```

Tomcat が起動したら、ブラウザで以下の URL にアクセスします。

- <http://sso.example.co.jp:8080/openam/>

「設定オプション」画面が表示されます。この画面から OpenAM の初期設定を行います。



図 1: 設定オプション画面

以上でパッケージのインストールは完了です。

3.4 RPM パッケージのアップデート

弊社提供のパッケージをアップデートする際は、以下の手順にしたがって実施してください。

3.4.1 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。

下記の例では /srv/osstech-work/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

3.4.2 Tomcat の停止

Tomcat を停止します。

```
# /sbin/service osstech-tomcat6 stop
```

3.4.3 OpenAM 設定ディレクトリのバックアップ

現在の OpenAM の設定をバックアップします。

下記の例では /root/backup/conf に保存しています。

```
# mkdir -p /root/backup/conf
# cd /opt/osstech/share/tomcat6
```



```
# rsync -av --exclude="openam/log/*" --exclude="opends/logs/*" \  
> --exclude="openam/debug/*" --exclude="openam/stats/*" ./openam \  
> /root/backup/conf/
```

|| 3.4.4 OpenAM のバックアップ

Tomcat にデプロイしている現在の OpenAM をバックアップします。

下記の例では /root/backup/webapps に保存しています。

```
# mkdir -p /root/backup/webapps  
# cd /opt/osstech/share/tomcat6/webapps  
# mv openam /root/backup/webapps  
# cp openam.war /root/backup/webapps
```

|| 3.4.5 Tomcat の work ディレクトリの削除

Tomcat の work ディレクトリを削除します。

```
# rm -rf /opt/osstech/share/tomcat6/work/Catalina/localhost/openam
```

|| 3.4.6 パッケージの確認

パッケージ展開先のディレクトリに弊社提供のパッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech-work/software/RPMS  
# ls base  
osstech-base-3.0-XX.el6.noarch.rpm  
osstech-support-3.0-XX.el6.noarch.rpm  
# ls openam  
osstech-openam-9.5.X-X.el6.noarch.rpm  
osstech-openam-tools-9.5.X-X.el6.noarch.rpm  
osstech-tomcat6-6.0.X-X.el6.noarch.rpm
```

|| 3.4.7 パッケージのアップデート

最初に base ディレクトリに含まれるパッケージのアップデートを rpm コマンドで行います。

```
# rpm -Uvh base/*.rpm
```

既に最新のパッケージがインストール済みの場合、次のエラーが表示されます。この場合はインストール済みのパッケージをアップデートする必要はありませんので、アップデート不要なパッケージをディレクトリから除いておき、再度アップデートを試みます。

```
# rpm -Uvh base/*.rpm  
準備中... #####  
[100%]  
パッケージ osstech-base-3.0-81.el6 は既にインストールされています。  
パッケージ osstech-support-3.0-81.el6 は既にインストールされています。
```

上記の例の場合、osstech-base パッケージと osstech-support パッケージのアップデートが不要なことを表しています。

続いて OpenAM パッケージをアップデートします。

```
# rpm -Uvh openam/*.rpm
```

|| 3.4.8 カスタマイズの反映

認証モジュールの追加など、OpenAMのカスタマイズを行っている場合はアップデートした OpenAM にも反映させます。カスタマイズを行っていない場合は本作業は不要です。

まず、war ファイルを展開します。

```
# cd /opt/osstech/share/tomcat6/webapps
# unzip -d openam openam.war
# chown -R tomcat:tomcat openam
```

下記の例ではログイン画面の画像を変更しています。

```
# cp /root/backup/webapps/openam/images/login-backimage.jpg \
> /var/opt/osstech/lib/tomcat6/webapps/openam/images/login-backimage.jpg
```

|| 3.4.9 Tomcat の起動

Tomcat を起動します。

```
# /sbin/service osstech-tomcat6 start
```

4. war ファイルのディプロイ

OpenAM の war ファイルをアプリケーションサーバーにデプロイすることも可能です。本章では Tomcat にディプロイする手順を説明します。

Tomcat は事前にインストールされているものとします。(Tomcat がインストールされているディレクトリを <TOMCATDIR> と記載します)

4.1 事前準備

4.1.1 Oracle JDK 6 のインストール

OpenAM の動作には JDK 6(Oracle JDK)が必要です。JDK は Oracle のサイトからダウンロードした RPM 版を使用します。ダウンロードしたファイルを `jdk-6uXX-linux-x64-rpm.bin` とします(XX は Update のバージョンです)。以下の手順で JDK をインストールします。

```
# sh ./jdk-6uXX-linux-x64-rpm.bin
```

コマンドラインのインストーラーが実行され、自動的に JDK の RPM 群がインストールされます。

4.1.2 環境変数 JAVA_HOME の設定

Oracle JDK がインストールされ、環境変数「JAVA_HOME」が正しく設定されていることを確認して下さい。

なお、OSSTech 版 Tomcat 6 (RPM パッケージ)では、設定ファイルで JAVA_HOME を指定しているため、この設定は不要です。

4.1.3 JAVA ヒープサイズ

OpenAM を動作させる環境では、Java のヒープサイズを 1024MB 以上に設定することを推奨します。ヒープサイズは環境変数 JAVA_OPTS により指定できます。

以下はコマンドラインで指定する例です。

```
$ export JAVA_OPTS="-Xmx1024m -XX:MaxPermSize=256m"
```

その他、OS 起動時に実行されるスクリプト内や、Tomcat の起動スクリプト内などで JAVA_OPTS を指定することもできます。

なお、OSSTech 版 Tomcat6 (RPM パッケージ)では、設定ファイルで JAVA ヒープサイズを 1024MB に指定しているため、この設定は不要です。

4.1.4 OpenAM war ファイルの取得

OpenAM の war ファイルは OSSTech 版 OpenAM 9.5 パッケージの RPM(osstech-openam)に含まれており、以下のパスにインストールされます。

- /opt/osstech/share/tomcat6/webapps/openam.war

war ファイルは以下の 2 通りの方法で取得可能です。

1. 「3.3 RPM パッケージのインストール」の手順で RPM をインストール、上記のパスにインストールされた war ファイルを利用する。
2. RPM ファイルをインストールせずに展開し、war ファイルを取得する。

ここでは、「RPM ファイルをインストールせずに展開し、war ファイルを取得する」方法を説明します。

まず、rpm2cpio コマンドと cpio コマンドを利用して RPM ファイルを展開します。

```
$ rpm2cpio osstech-openam-9.5.X-X.el6.noarch.rpm | cpio -id
```

上記コマンドを実行すると、RPM に含まれるファイルがカレントディレクトリに展開されます。展開されたディレクトリの中に OpenAM の war ファイルが含まれているため、この war ファイルを利用します。

```
$ ls opt/osstech/share/tomcat6/webapps/openam.war  
opt/osstech/share/tomcat6/webapps/openam.war
```

4.2 インストール

|| 4.2.1 OpenAMwar ファイルのディプロイ

OpenAM の war ファイルを Tomcat の webapps ディレクトリにコピーします。

```
$ cp openam.war <TOMCATDIR>/webapps/
```

|| 4.2.2 Tomcat の起動

Tomcat を起動します。

```
$ export LANG="en_US.UTF-8"  
$ <TOMCATDIR>/bin/startup.sh
```

OSSTech 版 Tomcat6 以外のアプリケーションサーバーを利用する場合は、文字化けを防ぐために環境変数 LANG に "en_US.UTF-8" を設定してください。

Tomcat が起動したら、ブラウザで以下の URL にアクセスします。

- <http://sso.example.co.jp:8080/openam/>

「設定オプション画面」が表示されます(図 1:設定オプション画面)。この画面から OpenAM の初期設定を行います。

以上でインストールは完了です。

5. OpenAM 用 LDAP スキーマファイルのインストール

本章では OpenAM のデータストアとして OSSTech 版 OpenLDAP を利用する場合に必要なスキーマファイルのインストール手順について説明します。作業は OSSTech 版 OpenLDAP がインストールされているサーバーで行います。

5.1 システム要件

5.1.1 ソフトウェア要件

以下のソフトウェアが必要です。

- OSSTech 版 OpenLDAP

5.2 パッケージ構成

弊社が提供する OpenAM 用 LDAP スキーマは以下のパッケージにより提供されています。

- OpenAM 用 LDAP スキーマパッケージ
 - osstech-openam-ldapschema

5.3 スキーマファイルパッケージのインストール

パッケージのインストールは、OS 付属の rpm コマンドを用いて行います。以下の手順にしたがってパッケージのインストールを実施してください。

5.3.1 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。

下記の例では/srv/osstech-work/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

5.3.2 パッケージの確認

パッケージ展開先のディレクトリに弊社提供のパッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech-work/software/RPMS  
# ls ldapschema  
osstech-openam-ldapschema-1.X-X.el6.noarch.rpm
```

5.3.3 RPM パッケージのインストール

rpm コマンドを使用して、RPM パッケージをインストールします。

```
# cd ldapschema
# rpm -ivh osstech-openam-ldapschema-1.X-X.el6.noarch.rpm
```

|| 5.3.4 スキーマの有効化

/opt/osstech/etc/openldap/slapd.conf に下記の定義を追加し、インストールした OpenAM 用のスキーマファイルを読み込むように設定します。

```
include /opt/osstech/etc/openldap/schema/openam.schema
include /opt/osstech/etc/openldap/schema/saml2.schema
```

設定変更後、OpenLDAP を再起動します。

```
# /sbin/service osstech-ldap restart
```

以上で完了です。

6. 改版履歴

- 2010年12月16日 リビジョン1.0
 - 初版作成
- 2011年2月28日 リビジョン1.1
 - OSSTech版Tomcat6 RPMに関する注意事項を追記
- 2011年6月8日 リビジョン1.2
 - Red Hat系OSの場合は、`/etc/sysconfig/network`にもFQDNを記述することを追記
- 2011年8月17日 リビジョン1.3
 - JDKのインストール方法を追記
- 2012年4月19日 リビジョン1.4
 - OpenAM用スキーマファイルのインストール手順を追記
- 2012年5月16日 リビジョン1.5
 - Tomcat起動時の環境変数に関する説明を追記
- 2012年8月6日 リビジョン1.6
 - RPM一覧にパッケージを追加し、インストール手順を変更
- 2012年8月7日 リビジョン1.7
 - 「1.1 本文書の目的」のOSバージョンにRed Hat Enterprise Linux 6、CentOS 6を追加
 - 「5 OpenAM用LDAPスキーマファイルのインストール」の説明を修正
- 2013年7月19日 リビジョン1.8
 - 章の構成を変更
 - アップデート手順を追加